

資料

保健福祉学科学生の意識と傾向 ——アンケートでみた特性——

佐藤 隆三¹

要旨：本保健福祉学科として、これからの新入生をどのように確保していくか、就職や国家試験を踏まえたときに学生の教育をどのように進めていくか、といった事柄が早急に対応を迫られている大きな課題となっている。そこで、この課題に取り組むうえでいささかでも資することができればと、本学科の学生の特性についてのアンケート調査を試み、その結果に基づき、若干の考察を行ってみた。標本数が少なく、また対象データが限られているので確定的な判断は困難であるが、参考になると思われるいくつかの示唆を得られたのではないかと考える。

キーワード：長男・長女、地元就職

1. アンケート調査の概要

2年次配当科目である「医療経済論」(選択科目) 受講学生を対象にアンケートを行い、任意に回答を求めた。回答者数は保健福祉学科の学生92名(男子53名、女子39名)であったが、他にリハビリテーション学科の学生6名があった。

以下の考察は、保健学科学生92名についてのものである。

アンケート調査票は、別紙のとおりである。

2. 分析と考察

(1) 学生の出身地

学生の出身地は、「宮城県」47名(51%)、「東北6県(宮城県以外)」43名(47%)、「それ以外」1名、無回答1名であった。

男女別にみると、男子では「宮城県」31名(59%)、「東北6県(宮城県以外)」21名(40%)、「無回答」1名となっており、女子では「宮城県」16名(41%)、「東北6県(宮城県以外)」22名(56%)、「それ以外」1名である。

「東北6県(宮城県以外)」の学生もかなりの割合を占めており、特に女子が目立っ

¹東北文化学園大学医療福祉学部

学生の意識と傾向

ている。

このことから、本学科は宮城県のみならず、広く東北地方から集まってくる学生によって支えられていることが分かる。

なお、参考までに、リハビリテーション学科の学生は、6名のうち4名が東北地方以外の「その他」からの学生であった。

(2) 長男・長女か？

回答者の77%に当たる71名が長男・長女である。しかし、少子化時代とはいうものの、他に「兄弟姉妹がいない」一人っ子はごくわずか（6名）にしか過ぎない。

男女別、地域別内訳をみると、男子では「宮城県」出身者31名のうち長男は20名（65%）と比率が低く、次・三男と考えられる者が10名（35%）いる。このことは、「今の時代、長男に限らず、どの子供もせめて大学まで出してやりたい。それも、できれば地元大学で」という親の気持ちがあり、その受け皿として本学科が仙台の「地元大学」としての強みを発揮していることを示唆しているのではないと思われる。

逆に「東北6県（宮城県以外）」出身の学生は圧倒的（81%）に長男・長女であり、このことから、「長男・長女は東京などの大学にやるわけにはいかないが、地元に近い仙台の大学ならば、将来、地元に戻って来やすい」という親の気持ちがうかがえる。そうした点では、本学は、東北各地から子息を送り出しやすい在仙の大学として、東北地方全般で評価されているのであろうと思われる。

(3) 家族形態

出身家族が三世帯世帯（おじいさんおばあさんと「同居している」と回答した者）の学生は38名（41%）、核家族（三世帯世帯以外）の学生は54名（59%）である。

全国的には核家族世帯の全世帯に占める比率は60.6%（2004年）であるから、ここでの核家族の割合は妥当だとしても、三世帯世帯の比重の大きさが目立つ（全国では三世帯世帯の比率は9.7%（同））。これは伝統的な家族形態が多く残る東北地方一般の特殊性を反映しているとみることもできよう。しかし、本学のかんりの学費負担を考え合わせてみると、このことから、本学科の学生には、いわば地方の名望家の子弟がかなり多いのではないかと推察される。特にそれは女子に顕著であり、男子では三世帯出身者は9名（36%）にしか過ぎないのに、女子では20名（51%）と過半を占めている。彼女らの親にしてみれば、由緒ある家柄の子女としては大学進学（専門学校ではない！）させざるをえない時代であり、どうせ大学へ行かせるならば、学費は何とかなるから、将来は実家に戻り、祖母・祖父などの世話をしたい、あるいは地元で就職先の得られやすい福祉の仕事をして欲しいと考えていると思われる。そのために福祉を勉強し専門的知識を習得でき、しかも近隣である仙台の福祉専門の本学科を選択したと考えられる。

(4) 将来の就職地の希望

卒業後の就職希望地について、「未定」（17名）を除いた学生75名のうち「地元」と答えた者は52名（70%）で、圧倒的な地元

志向がうかがわれる。

ただし、「東北6県（宮城県以外）」出身の者では男女とも「東北6県（地元以外）」での希望が多く、「未定」を除く37名のうち15名（41%）となっているが、これは仙台での就職を希望していると考えられる。しかし、長男・長女である彼らはいずれ地元へ戻ることが親から期待されており、本人にもその意識が強いと推察される。

「東京その他」での就職希望者は4名（男子3名、女子1名）であり、いずれも「宮城県」出身者である。このうち長男・長女は各1名であるが、おそらく転勤族の子弟かもしれない。

このことから、「地元の大学に入学させ、地元で就職させたい（いずれ地元へ戻りたい）」という親の意向と、その意向に添った学生が、本学科の学生の大きな部分を占めていることがうかがわれる。

（5）親の面倒を見るか？

「将来、親と同居して面倒を見るつもりですか？」という問いに対し、「わからない」と答えた学生は55名と過半を超えているが、これは年齢的にやむをえないと思われる。

しかし、今から、「はい」と答えた者が21名（92名の23%）もおり、そのうち15名が長男（9名）・長女（6名）であることから、長男・長女が親を扶養するという伝統意識の強さが感じられる。他方、今から「いいえ」という者は12名で、うち長男・長女は7名である。それでもこの7名のうち2名（女子）は、将来、親が要介護状態になったときは「家で自分が介護する」と答えている。

「わからない」と答えた学生の場合でも、将来、親が要介護状態になったときは「家で自分が介護する」と答えた者が16名（31%）おり、男子35名のうち3名、女子25名のうち13名となっている。

このことから、一般的に、本学科の学生は親の老後の面倒を見るという意識を持っており、そのかわりににおいて、潜在的に福祉に対する関心が高いということができよう。

3. まとめ

以上の分析と考察から、本学科の学生の意識と傾向については、ごく大雑把ではあるが、次のようにいえると思われる。

すなわち、本学科の学生は、それなりに勉強意欲もありサークルなどの活動にも熱心に取り組む者もいる一方では、「この時代、子供は、ともかく地元の大学を出てくれればよい。卒業すれば、地元就職し、親と同居し、親の面倒を見てくれるだろう」という親の意向を背景として、漠然とした意識の持ち主もかなり多いことが推察される。ちなみに、学生をいくつかの特性タイプに分類してみれば、次のようになるのではなかろうか。

- ① 長男・長女として育てられ、すなお一筋ではあるが、何事につけ総じて活気に乏しいタイプ。
- ② 他県からの学生で、親元を離れ自由であるが、いずれ地元へ帰るから、それまではサークル、バイトなどで活発に活動するタイプ。

学生の意識と傾向

- ③ 必要な福祉の資格を取るため勉学には励む一方では、経済的な心配なしに遊びにも熱心なタイプ。
- ④ 親の意向で入学し、学生生活はほどほどに過ごして、将来についても親の意向次第のタイプ。
- ⑤ たまたまこの大学に入っただけで、将来のことなどはあまり考えないタイプ。

(注)結婚時期などについての設問の分析は、ここでは行っていない。

アンケート

——協力してください——

該当するものに () 内に○をしてください。

- I. () リハビリテーション学科 II. () 男性
 () 保健福祉学科 () 女性
- III. 出身地 () 宮城県 () 東北6県(宮城県以外) () それ以外
1. あなたは長男または長女ですか? () はい () いいえ
2. 他に兄弟姉妹はいますか? () はい () いいえ
3. おじいさん、おばあさんはいますか?
 () 同居している () 近くに別居している
 () 離れて別居している () いない
4. 卒業後、どこで就職したいと思っていますか?
 () 地元 () 東北6県(地元以外) () 東京その他 () 未定
5. 将来、就職すれば、毎月、親に仕送りをしたり、生活費を家に出すつもりですか?
 () はい () いいえ () わからない
6. 30歳までには結婚するつもりですか?
 () はい () いいえ () わからない
7. 将来、親と同居して面倒をみるつもりですか?
 () はい () いいえ () わからない
8. 将来、親が要介護状態になったとき、どうしますか?
 () 家で自分が介護する () 施設(老人ホームなど)に入れる
 () 病院に入れる () その他
 () わからない